



肥後銀行  
上海駐在員事務所 所長  
坂西 倫明

# 今、日本のお酒が熱い！ 中国における日本産酒類の輸出拡大に向けた取組み

## 1. はじめに

福島第一原子力発電所において発生した放射性物質が含まれる水を、国の規制基準以下まで浄化処理したALPS処理水が昨年、海洋放出されました。その影響で日本産水産物が禁輸されるなど、中国へ向けた日本の農林水産物輸出量は減少傾向にあります。そのような環境下、堅調な推移で拡大しているのがアルコール飲料（日本産酒類）です。今回は中国・上海におけるアルコール飲料のプロモーション活動や商談会の状況をレポートします。

## 2. 中国における日本産酒類の状況

中国向け農林水産物・食品の輸出品目のうちアルコール飲料は、過去最高となった2022年から減少したものの、2023年時点で300億円を超える額を計上（図表1）。しかしながら、熊本県の特産品の一つである焼酎については、泡盛を含めた輸出額でも3億円程度とその規模は小さく、国内取引額の1%にも満たない状況となっています（図表2）。そのようななか上海では、JETRO上海を中心に日本産酒類の輸出推進を図るべく、各種展示会やイベントへの出展を積極的に行い、認知度向上に注力しています。中でも、今後の市場拡大の可能性を秘めている焼酎と、富裕層の購買ニーズが高い日本酒の輸出拡大を目指し、プロモーション活動を積極的に行っています。

以降は会員専用ページにて公開しております。

ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページより  
アクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

中国	39,457	32,221	▲ 18.3%
台湾	12,029	13,516	+ 12.4%
香港	11,593	9,100	- 21.0%
シンガポール	8,237	7,100	- 13.1%
ウイスキー	13,214		
清酒	12,465		
ビール	2,149		
焼酎・泡盛	335		

## 3. 上海における日本産酒類の状況

上海市で初開催された中国内地最大の酒類展示会「2023 Japan Sake Month」は、日本産酒類の70%

[会員の方ははこちらから](#)